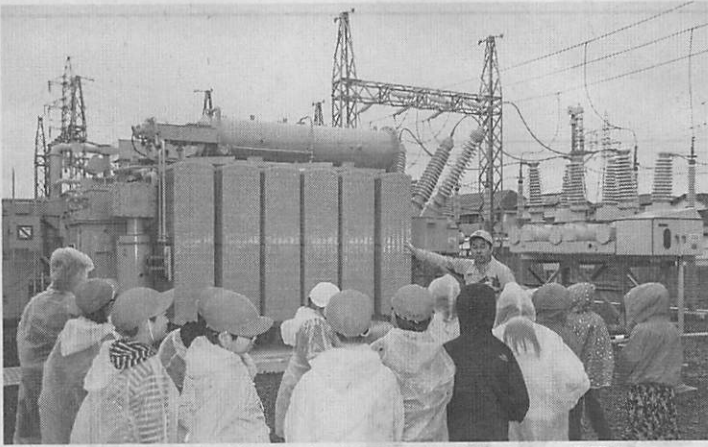


地域・グループ



児童たちは小学校から変電所まで歩き、「電気の通り道」について理解を深めた

国のエネルギー教育モデル校として選定されている仙台市立南小泉小学校(永井一也校長)はこのほど、4年生を対象に「電気の通り道」と題した校外学習を行った。授業には東北電力仙台営業所(小林正明所長)の所員3人が講師として協

現場から @ エネ教育

電力営業 東北 仙台

電気の通り道を学習

モデル校の授業に協力

力。児童たちは校内の受電設備から電柱や配電線をたどって東北電力南小泉変電所まで歩き、普段使っている電気がどこから来ているのかについて理解を深めた。授業には2クラス約70人の児童が参加。仙台営業所員が班ごとに引率しながら変電所まで約500mの道のりを歩いた。途中で所員

が柱上変圧器や配電線の仕組みなどについても説明した。南小泉変電所では仙台技術センターの所員が変電所内の受電設備や制御機器、開閉器、変圧器などの役割や仕組みを解説。24時間いつでも安定した電気を送り届けていることを伝えると、児童たちは感心しながら耳を傾けていた。その後、児童たちは変電所と送電鉄塔がつながっていることを確認。「電気の通り道」がさらに続いていることを理解した。児童たちは「なぜ変電所内には砂利が敷き詰められているのか」「トランスがある時はどのように対応しているのか」など、見学して感じたことを積極的に質問していた。事前学習で児童たちは、「電気の通り道」の始点となる校内のコンセントからキュービ

クル式の高圧受電設備までたどる調査を実施。これを踏まえて今回の校外学習を行った。26日には終点となる仙台火力発電所や仙台太陽光発電所の見学を行う予定だ。南小泉小は仙台営業所と協力し、エネルギー教育に関する見学や実験、職場訪問などを組み込んだ独自の力りキュラムを作成。児童たちが体系的にエネルギーについて学べる授業を展開している。参加者か

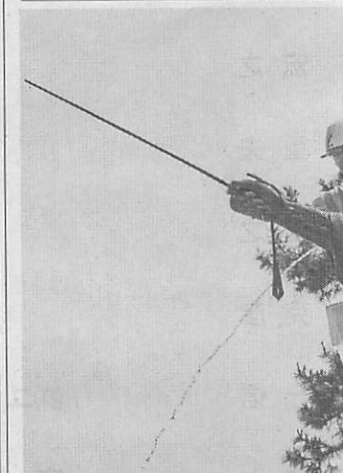


懐かしの「家電」に話が弾む姿もみられた。来場者を魅了した札幌交響楽団の演奏



命名150

は初期のカラーテレビや計算機、手回し式の洗濯機、上段に水を格納する冷蔵庫などを展示。「懐かしい」という声もあれば、「どうやって使うのか」など年代によって様々な反応が出ていた。



高所作業車から銅像に

今回は4内で行われ、「松江武者尾家役を担う約20人も吉晴役を務める号令で銅像をきれいにする。1時間

の時期に銅掃活動を行う中国電力は、掃に協力し

2013年立。堀尾吉文化活動を「松江堀尾全の時期に銅掃活動を行中国電力は、掃に協力し